

保科晶の雑記帳

2006



初詣

いつもの神社に、いつもの人出。
これが元日、といえそうな、すばらしい快晴。
気分よく、帰り道を歩いていると、
なにやら向かいの道路から、黄色い旗を持った人たちが！
バス停の前の私の目の前を歩いていく。
幼顔の男のこの額には黒い鉢巻、
「東大寺」「星光」の文字。
黄色い旗を掲げ、黄色いレインコートのような
上着を着ている引率者。
前を見て、真剣な顔をして、もくもくと。
思わず、神社に引き返して、
カメラに収めようかと思ったが。
幼顔の目はどこを見ているのだろう。





[初詣](#) [2006-01-02 16:24 by guminomi2]

1月3日のひかり

曇っていたが晴れてきた。

風が強い。





[1月3日のひかり](#) [2006-01-03 20:48 by guminomi2]

十日戎

いつもいっしょに行く人が今年是用事でいかれず、
ひとりで。

風邪気味で迷ったが、えいっと。

いままでは電車を乗り継いでいったが、
駅に電話してみると、戎行きのバスが出ているという。

昔の面影がまったくなくなった北口からバスで。

気温は高めとTVでいっていたが、うす晴れでひーやり。

国道43号線の臨時バス停からちょっと、というよりは
とおく歩いて神社へ。

大通りも参道もいつもと同じく露店がいっぱい出て、
煙も混じってほこりっぱい。

途中で去年の福笹をお返しして、どンドンすすむ。

まずはお参りの前に福笹を2本買う、1本は母用。

あちこち、デジカメ、パチパチ。

なんで、えべっさんにうまがいのかな？と今年も思う。

青銅の馬。

お祓いをうけてさて境内へ。意外に空いている。

福は残っているかな、とお賽銭を入れて、願い事。

いつもは「商売繁盛、家内安全」と一つ覚えでいうけれど
ことしはけっこう具体的にいつてみた、さて。

マグロのところはいっぱいで、5円を貼るのはやめ。

神様の出張所は並んでいたもので、これも空いているところだけ。

初詣の神社にも同じ神様の出張所があったところをみると

このせつ、忙しいんだね、神様も。

裏手をまわって大通りへ、ピンクや桃色の大きなナイロン袋が
なかったんじゃないのかな、綿菓子屋。

福がもらえたかどうかはわからないけど、

もらってしまったものがある、ほんまの風邪。

ことしもまた、はじまり！はじまり！



[土日戎](#) [2006-01-14 16:32 by guminomi2]

今日は

震災記念日である。



[今日は](#) [2006-01-17 23:51 by guminomi2]

交渉術

と、までいえるかどうか、

最近、無理かもな、と思っていた懸案が
解決した。（と、思う）

私の出身地県人は、短気だ、と
私は思っている。

短気、というのはなにも怒りっぽい、ということではない。

じっくり型交渉に弱いのである。

もういいや、やめ、とみずから土俵を降りてしまう。

そして、相手の言うとおりにになってしまう。

今回はこれを逆手にとった。

99%無理かも、と、思っていたことを

承知させてしまった。（つまり、ほとんど、私の予想していた
とおりになったのだ）

これはやはり相手が私と同じ県人だったから
成功したのだと思われる。

ただ、

こんなことができるようになったのは、

私が歳をとった、ということでありましょう。



[交渉術](#) [2006-01-19 23:21 by guminomi2]

ひょいっと
入ってくるような
こんな小さなところが
よみたいために
わたしは新聞をみる。



言葉の羅列

ベランダに 妖精舞うや 春の雪
ベランダに ふわり重なる 春の雪
ベランダに 干し物しずか 冬ぐもり
冬枯れの ベランダの鉢 草もゆる
薄ばれの 春待つ鉢に 草ふたつ

ピーピーと 声澄み渡る 寒の入り
西の空に 三日月ありて 若き頃

凍る月 ちりをはらって 太古なる
凍る月 棕櫚の葉の上 雪のごと

沈丁花 芽をふくらませ 春をまつ





[言葉の羅列](#) [2006-02-05 12:59 by guminomi2]

お雛さま

今年も

ようこそ！

ひかりのなかを淡雪が舞う日です。





ふわふわと 淡雪舞って ひな出す日

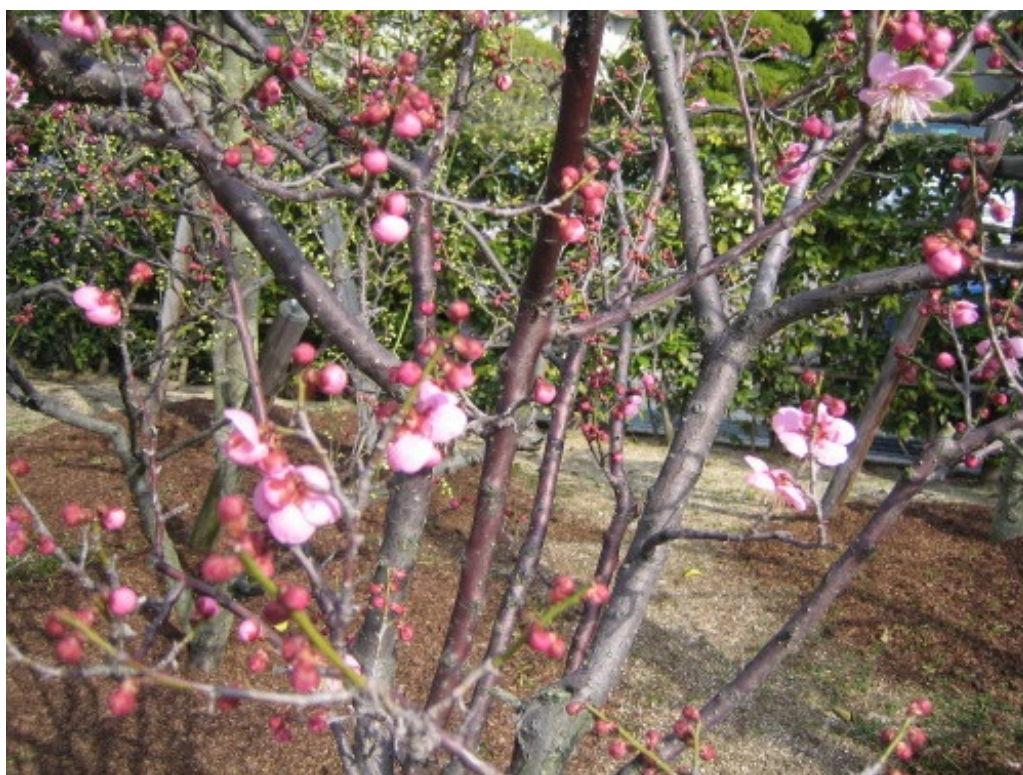
[お雛さま](#) [2006-02-12 22:18 by guminomi2]

ひと休み



[ひと休み](#) [2006-02-20 21:40 by guminomi2]

梅一輪 一輪ごとの あたたかさ





[梅一輪 一輪ごとの あたたかさ](#) [2006-02-27 15:24 by guminomi2]

雛の節句

”雛祭る 都はづれや 桃の月”

蕪村



[雑の節句](#) [2006-03-04 15:02 by guminomi2]

目医者に行く

今日は視力が出なかった。

ここ何日かTVが見にくかった。

「白内障がすすんでいるのかも？アレルギーがでているのかな？」

むむ～～。

緑内障に、白内障に、アレルギー、

「薬、どうする？やめとくか、目薬ばかりになるものね」

やめときます！ってなもので。

最近ハードルがだんだん低くなるなあ、

いいや、目の前が見えればいいや！ってな具合で。

そのかわり、永い未来は見ないことにしたよ。



[目医者に行く](#) [2006-03-10 22:42 by guminomi2]

安心料、1260円

みぞれまじりの淡雪の今日、耳鳴りで、見つけた耳鼻科に行く。

土曜日からのめまいである。

パソコンに吸い込まれそうになる。

新聞の字が目の中に寄ってくる。

肩が板のように張って、足が冷たくなってくる。

額のあたりがぶわ〜〜っとぼやけている。

ネットでしらべて、まあ自律神経かな？とあたりはつけていたけれど、
ついでがあったので、行くべし！と。

ついで、とは、3ヶ月前ほどに、とったばかりの、ウオノメがまた出来て
どうにも歩きづらくなっていたから。

4、5日まえから、スピール膏を貼ってころあいにふやかしていたのだ。

古〜〜くからの皮膚科で、「ブチブチ」と切ってもらう。

「なかなか自分で切る勇気がないんですよね」

「それはそうさ、だから、俺達医者がいる」

ってな感じで、730円なり。

耳鼻科ではやはり、

つかれですな、自律神経がおかしくなってますな、と。

薬はいりません、診断がつけばいいんです、と。

ハイ、安心料、1260円。

私も精神が弱いんですな。

でもこれで、あっさりとな納得してしまえるところが、私のいいところ。

めまいは治ってないんですが。

ついでに言いますと、たくさんの持病がありますな。

緑内障は、ほんとのほんと、難儀ですな。



[安心料、1260円](#) [2006-03-13 15:45 by guminomi2]

収録見学

教会で行われた、バロック音楽のTV収録にエキストラで参加した。

役目は、拍手。もちろん、はじめて。

この教会はずいぶん前になるが、

やはりこのバロック音楽の演奏会にきたことがある。

結論からいうと、消化不良。演奏会はお金を払っていくべし。

まず、担当の女の方（プロデューサーか）の言葉がまったく聞き取れない。

言葉の草書体といったらいいだろうか、

めりはりのない、早口で、巻き舌のようで、私にはまるで、

音としか、聞えなかった。

いらいらしてしまった。これでまず、心がつんのめってしまった。

あとは、リハーサル、パチパチ、休憩、収録、パチパチ。

この繰り返し。

聴きたいと思っていたテノールのソロもなかった。

予定より早く終わったが、なぜだかわからなかった。

ぺらぺらと何か言っているのは聞こえるが、なにもわからなかった。

そして、なんだか、帰ってきた。

口を半分あけたままだった。





[収録見学](#) [2006-03-22 15:43 by guminomi2]

デジカメ散歩

快晴！ああ、いい天気。

風は冷たいが、なんともあたたかい春の陽ざし。

梅、桃、白もくれん、紫もくれん、ねこやなぎ、桜、雪柳、鉢の花々。

梅林の梅は、満開過ぎ、今が満開もけっこうある。

こんなにすばらしく咲いている時期にきたのは初めてか。

かそけく匂って、東風ふかば・・・の感じ。

散り敷いた、小さな花びらもいい。

花通りを歩いて、大学の正面から入る、前庭はけっこうな子供連れ。

大学の中はどこを撮っても絵になる。

ことに、今日のような快晴の日は体の中を、別の空気が、吹き抜けていく。

桜の頃は、このあたり一面、桜で白くなる。







[デジカメ散歩](#) [2006-03-26 16:45 by guminomi2]

桜 . . .

桜はどうか？

学園花通りは3分くらいか、今日は大学の入学式のように、
帰りの人が、前から歩いてくる。

ここの桜は若木が多い。

この週末あたりが満開かな。

途中から右に折れて中学の門を入ると、ここは意外に7分くらいは咲いている。

春休みで、こどもが路でナイロンボールの野球をしている。

建ててから、何年も経っていない家がもう更地になっている。

植わっていた木は全部引っこ抜かれて見事になにもない。





[桜 . . .](#) [2006-04-03 15:50 by guminomi2]

「春の雨 夢とわかって もう晩年」

清水径子さんの83歳の句集のなかのひとつである。

読むたびに胸の中になんともいい難い感情がせりあがって来る。

せつない、誰もが味わうような、ああ、私は言葉が足りない。

普遍的なもの、真実があるから、感じてしまうのですね。

だれも、人生からは逃げられないのですね。

この方は、このあと、10年余りも生きられたのです。



[「春の雨 夢とわかって もう晩年」](#) [2006-04-04 21:33 by guminomi2]

アンリ・カルティエ＝ブレッソン展

風の強い、これ以上ないというくらいのもものすごい黄砂の日、
[天保山のミュージアム](#)に行く。

ずいぶん前、やはりここ天保山で、カルティエ＝ブレッソンの何枚かの
写真を見て、パリの街角のようであったが、心に、残っていた。
今回その作品は、なかったように思う。

遠近法をいかした、絵画的な写真、一枚一枚が、そのまま、
ひとつの絵になりそうだ。

迷いなく瞬間瞬間を切りとっている。

私が、イギリス、フランス、ほかいろいろな国に持っているイメージ、
それが写真に何の違和感もなく、表れてくる。

私がブレッソンを好きなわけである。

ただ一つ、日本に関しては、私が日本人ということと、日本の写真が
少ないことから、多少、「こんなものかな」と思いましたが。

私はヨーロッパの写真が好きです。

宗教が、風景の中にまで、染み渡っているような気がします。

その時代が不思議なくらい、よくわかり、

人物を主体にしたものが多いのですが、

風景のなかにじつにうまく人物が配置されています。

風景だけの写真も素敵です。

白黒写真のバイブルのようです。

色がない分、気持ちが分散されることなく、作品に入ります。

膨大な量で、最後はかなり疲れてしまったが、

とても満足いくもので、迷わずカタログを手に入れました。

さて、このミュージアムのもう一つのたのしみ、

5階のギャラリーの休憩室から見る、外の景色。

海の中に横に伸びる突堤。船着場。

海上保安庁、と書いた船が揺れている。

人工的な、風景なのに、いつまでも見ていたい、なつかしさを感じてしまう。

前に来た時は、もっとシンプルな景色だった、と思うが、

目に入る建物が多くなった気がするのが、すこし残念。

天気の良い日は、何とも明るいのに、

この日はまあ、息の詰まりそうな黄砂の日である。

鈍いひのひかりを受けて海は灰色にとろりとひかり、

すべてが鈍色（にびいろ）であった。

ミュージアムから水族館に行く通路のそばの芽を吹き出した、

木々が、目の中に入り込んできた。





[アンリ・カルティエ=ブレッソン展](#) [2006-04-09 23:22 by guminomi2]

はなふぶき

「いきくれて 木（こ）のしたかげを宿とせば 花ぞ今宵のあるじならまし」









[はなふぶき](#) [2006-04-15 14:56 by guminomi2]

牡丹桜と若葉



[牡丹桜と若葉](#) [2006-04-21 23:38 by guminomi2]

「ピオロンチェロ・ダ・スパラ」

「肩掛けチェロ」

復元したこの楽器の演奏会が[ベルギーフランドルセンター](#)である、という。

早速電話で問い合わせをする、なんとも愛想のない男の声が、

「予約しますか?」、とたんにする気がなくなった。

「いいえ、明日行きます」

その明日、

満席です、の看板。

キャンセル待ちの列に並ぶ、トイレに行きたくなっていったる間に

二人、前に入っている。

開演が近づき、12枚の券が、配られる。

私の前まで。

私を含め、3人があぶれた。

なにもかも、私自身のせいだった。

電車をいくつも乗り継いだ、ちょっと遠い散歩。





[「ビオロンチェロ・ダ・スハラ」](#) [2006-05-01 22:29 by guminomi2]

くすのきの衣替え

の、季節である。

ふるい衣がからからと風に舞う。

匂い立つような、けふるような若葉がそらに向かっている。

秋よりもきれいだと、思わせるような、もみじの黄緑もある。

ああ、牡丹も咲いているな、

写真を撮らなくっちゃ、と思いつつ、

自転車を走らせる。

[くすのきの衣替え](#) [2006-05-01 22:39 by guminomi2]

憲法記念日

本日は晴天なり。
風、涼やかに、若葉、天に萌ゆる。
いつまでも続くことを願う。



端午の節句

ベランダのさつき満開である。

昔、

父が、山の畑の池のそばの菖蒲を刈り取ってきて、
よもぎといっしょに屋根の上に放り投げ、
よもぎと山つつじの花を高いさおの先にくくりつけ、
家のそばの柿ノ木に寄せて、立てかけておいたものです。

メインはやっぱり、柏餅、母と山に葉っぱを取りに行きます。
いわゆる本当の柏の葉ではなく、山に自生している、いばらの
丸い葉っぱで、たまにこれで作った柏餅に出会うと、とてもなつかしい。
粉を熱湯でとき、前もってつくっておいたあんこ（こしあん、なんといっても
こしあん）をいれて葉っぱで包み、湯気の上だったせいろで蒸して、
一回目は、あっというまに、私たちの腹の中、
私の記録は26個である。母の柏餅は、祖母のところなどと比べると、
かなり、お上品で小さめ、ということもあったが、食べに食べたりである。
甘いものの乏しかった時代です。

夜は菖蒲湯に入りました。

書いていると、菖蒲のにおいが鼻の先におおってきそうです。





[端午の節句](#) [2006-05-05 13:38 by guminomi2]

さながら、人生劇場の、野戦病院のごと。

88、87、86、8人部屋のすぐ隣のひとの歳である。

全員、転院組みである。全員、一人暮らしである。

また、全員、骨折である。

ベッドを隔てるカーテンもない。

お尻丸出しでおまるでおしっこする。

トイレではない、洗面場には、使い古しでところどころしみのついた、点滴の管が何本も洗ってぶら下げられている。

4階がお風呂と洗濯場になっている。

洗い上げられたバスタオルが山積みになっている。

いろいろなスリッパが洗って立てかけてある。

古い、擦り切れた、なんていうのだろう、台車のようなものが置かれている。

屋上からは、広大なショッピングモールが見える。



評判どおりのところ、

なんだろうか、

いや、断じて、

「ここ、ええわ」と意外なくらいのおだやかな顔。

やれることをかなりやって（と、思っている）

結果的に何もかも跳ね返されて、

すべて、こちらのエゴだったかと、
今の顔が、物語っている、
この顔が続きますように。

[一こま](#) [2006-05-12 14:48 by guminomi2]

オムライスと銅版画と

昔の知り合いが、といってもその人は若いが、
個展をやる画廊の近くに、その公会堂はあるらしい。
公会堂の中の食堂のオムライスがけっこう有名で、
五月としては肌寒い、風のある雨の日、
公会堂の裏手の、なんだかわからない、石の階段を、
それも、雨水のたまった、降りていくと、
時代を戻したような、古いがどっしりしたソファ、テーブル、
その向かいに、ガラスのなかにメニューが飾られ、
ドアを開ける。
雰囲気はあるが、ここは食堂である、まさしく。
オムライスは、じつに、普通であった、これ以上ないくらい。
テーブルを拭いたふきんのおいがかすかにただよっていた。





画廊の名前は、南天荘画廊という、いい名前だ。

昔は、この場所ではなかったが、本屋さんだったという。

個展の主は、妖精のようで、やはり、妖精のような趣のある作品である。

何年か前から、文庫本の表紙なども手がけている。

緻密で神経の使う仕事である。

画廊主から、紅茶、お茶、コーヒーと、フルコースの接待を受けるくらい、
長居をしてしまった。

雨にぬれた、鮮やかな若葉のなかを、駅に向かった。



[オムライスと銅版画と](#) [2006-05-13 23:05 by guminomi2]

ひさしぶりに

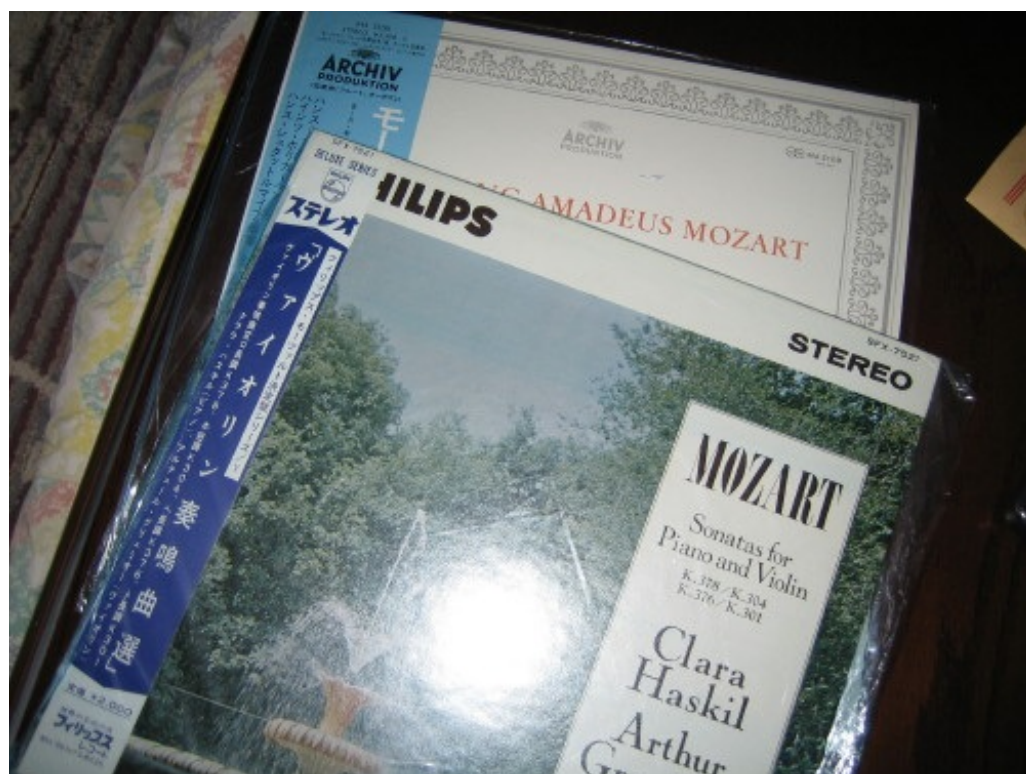
モーツァルトを聴く、いつもながら家事とともに。
ソナタ、K,378、307、376、301、
ハスキルとグリュミオー。
フルート協奏曲・第一番・K,313、ハンス＝マルティン・リンデ。
オーボエ協奏曲・K,314、ハインツ・ホリガー。

外はみどりのひのひかり、
30年前のパイオニアのプレーヤーで。
まだ、やわらかく、澄んだ音を響かせる。
レコードならでは。
いつもは、これもふるいCDラジカセで。
音は雑音さえなければ、というくちだけど、
ああ、いい音はやっぱり、いい、と思う。
珠をころがすような、ハスキル、
軽々と異空間に飛んでいくホリガー。

演奏は顔の好きな人が好き、
音楽はその人すべてで表していくもの、
ハスキルはすばらしい美女であるが、
べつに美女や美男が好きというわけではなく、
好きな演奏をする人の、顔もやっぱり好き、というところ。
たまに、演奏は好きだが、顔がいまいち、というときが困る。
CDの顔の写真をいち早く隠して、顔を忘れることにする。
ものすごい思い入れたっぷりの演奏や、
汗がたらたら流れているのは、じつに落ち着かない。
この顔から、この音楽！とあまりにアンバランスなものも
好きになれない。
その音楽に合った、顔というのものもあるような気がする。

モーツァルトは私のような音楽の才のないものでも、
長く聴いていると自然に覚えられる（所々だけど）のが、
とても楽しい。
メロディーに不自然さが感じられない、
川の流れに乗ってゆける。
かたやバッハは、好きで好きで聴いていても、
なかなか、覚えられない、うたえない、

ああ、うたいたい！うたえないねえ。



[ひさしぶりに](#) [2006-05-21 14:27 by guminomi2]

こんなポストに

なったのです。
我が家のそばから、
路の向かいの家のそばに
引っ越したのです。
すっきりしました。
小さくなりました。



[こんなポストに](#) [2006-05-23 22:52 by guminomi2]

クワイチゴとスイカズラ

カメラで五月を切り取るのは楽しい。
おとといはクワイチゴの大きな木に出会い、
今日は、スイカズラに、
昔はそここの土手にたくさんあったが、
最近土手が少ない。
雑草のようで、花の時期でないとわかりづらい。
根が下であれば、抜いてベランダに、と思っただが、
はるか上の方である。
何本か折って、花入れにさしている。
さすが、かずらで、ポキンとはいかない。
かそけき、においがなんとも好き。
こんな香水があればいいのに、と思う。

くすのきの花が満開、いちめん五月のにおい、
あおいびわの実がある。
草木のにおいもカメラに入れる。



[クワイチゴとスイカズラ](#) [2006-05-27 20:59 by guminomi2]

六月になり、

五月のにおいは失せ、
空気に熱のもやがかかり、
ある日、気がつく。
耳の中にも世界があったのだ、
たとえば、クレーのような。

[六月になり、](#) [2006-06-06 23:15 by guminomi2]

レコード針

PN-3MC、

パイオニアのレコード針である。

製造中止になってしまっていた。

かなり、高かったので、予備に買っておかなかった。

プレーヤーを買いなおしても、また、いつか、その針もなくなるでしょう。

レコードもたいして多くはないが、とても気に入っているがあるので

ああ、無念！！

CDに買いなおそうかと、一枚だけ、アマゾンで買った。

世の中はすすんでいるが、こちらはすべて一歩遅れている。

プレーヤーもそうだが、CDも古いラジカセで聴いている。

いい音も素敵だが、雑音が入らないうちは、現状維持である。

レコード全部買いなおすのはえらくお金がかかりそうで、

とてもだめだが、聴けないとなると、むしろ聴きたくなるのも

難儀なものである。

[レコード針](#) [2006-06-09 23:04 by guminomi2]

川筋の散歩

川のそばの道を歩いていくのはとても気持ちがいい。
川を遡っていくと、途中から空気がひーやりとしてくる。
田舎の草のにおいがしてくる。
川の中には茫々と草が生い茂っている。
ところどころ、黄色や、小さな白い花が咲いている。
昔と植生がずいぶんと変わってきた気がする。
イタドリがよきによきという感じで八方に手をのばしているのは変わらない。
一番変わったのは、魚がいなくなったことである。
30年前、住み始めた頃は、
でっかいおたまじゃくしがいて、ウシガエルがいた。
魚がピチピチとはね、日照りが続くと、
ひっくり返ったのが橋の上から見えたものである。
去年は途中まで遡ると確かに魚影が見えた、
しかし今年はまったく見えない、水が流れているにもかかわらず。
上流を見渡すと、みっしりと家の並んでいるのが見える。
山の形に家が連なっている。そのあたり、昔は林だったのだ。
魚がいなくなるわけである。
相棒のデジカメで撮る。川と草のにおいを撮る。



再見！

文月なり。

今日は半夏生、夏至から十一日目にあたる。

7日は小暑、七夕である。

今年もまた、短冊を飾る。

笹舟に乗せて、このブログ、天の川に流そう。

やがて梅雨明け、

夏本番となる。



[再見！](#) [2006-07-02 14:48 by guminomi2]

パート2

笹舟で、天の川に流したブログ、こぼれ落ちて、運良く私の手元に！

第二章のはじまり！はじまり！

ギャリコの「ポセイドン」を読む。

これはあまり、気乗りがしなかったのだが、なんとなく買ってしまったので。

船がさかさまになったときの状況が、いまいちつかめず、

地底旅行を想像しながら、閉所の苦手な、闇が怖い私は・・・

さすが、ギャリコ、そのうち、暗闇に引き込まれてしまった。

目指す頂上は、船の底、冒険を重ねながら、たどり着いた者と、

酒を飲んでひっくり返っていた者が、同じように助かった不思議！

たくましいと思っていた、リーダーの人間が自殺して、

ただの人が残る不思議！

翻訳物を読むといつも思うが、最悪の状況でも外国人はよくしゃべる、

日本人は無口になりそうな気がするが、どうなんだろう？

いつもながら、ギャリコは男の描きかたがうまい、と思う。

誰かが、ギャリコは女の描きかたがすばらしい、と書いていたが、

私はそうは思わない。女の描きかたのぴかーは、

なんといっても太宰治である。太宰を読むと、

どうしてあなたは、女の気持ちがわかるの？と聞いてみたくなる。

横道にそれたが、「ポセイドン」の読後感は、やっぱり、いまいちであった。



[パート2](#) [2006-07-21 23:12 by guminomi2]

映画を見に行く

何年ぶりだろうか、映画評に乗せられて、土曜はやばいかな、と思いつつ、大雨の被害に遭われている方々には、申し訳ないくらいのいい天気で、梅田のロフトの地下に行ってきた。案の定、並んでいる、「立ち見ですよ」と。一瞬帰ろかな、思ったが、一番後ろのバーに、腕をのせて見ることにした。60席くらいのおじんまりしたところなので、見る分には、いい場所である。昔見た、「奇人たちの晩餐会」がとても楽しかったので、この「親密すぎるうちあけ話」もフランス映画ということでちょっと、いいかな、と期待していたのだ。う～むむむ。「うそつき女のうちあけ話」のタイトルの方がいいんじゃないか、と、思いながら、腰の痛みと闘いながら、なんだ、これは、定番じゃないか、コケティッシュな女が、真面目な男を本気にさせる、ああ～ほんまかいな、なんとかしてえな、映画評では、「衝撃の結末・・・」とか、書いていたけど、これがそうなの？フランス風には違いないようだけど。

驚いたのは茶屋町近辺が、きれいになっていること。前は、細い路を、てくてくロフトに行ったものだが、広い！建物が、道路に迫ってきていたように覚えているが、どうやって広くしたんだろう。裏道のほうには、工事中のところもあったので、いまに昔ながらの家がなくなってしまうのかもしれない。違和感があるくらい、あっかるくなっているねえ。こんなにきれいになってしまって、宝くじ売り場もなくなってしまったんだろうかと、歩いていたら、あった！まだ、3,4回しか買ったことのない宝くじだけど、この前買ったのが、3千円当たっていたのだ！それで、10枚買う。これで、用事はおしまい！

[映画を見に行く](#) [2006-07-22 22:50 by guminomi2]

TVで天神祭り

大阪へ出てきて、はじめての夏、
ものすごい人ごみの橋の上から、
眺めたものです。

ほとんど、見えない、あつい！
天神祭りのころの大阪のあつさは格別！
くそ暑い！がびったり。

祭りと聞くとなにかがざわめく、
よく、帰ってこられたものです。
若いころは方向音痴じゃなかったのね。

さて、ン十年を経て今夜はTVで天神祭り。
血は騒ぐけれど、行く元気がね、





[TVで天神祭り](#) [2006-07-25 22:33 by guminomi2]

61年目の原爆の日

息がつまりそうな、カンカン照りである。

ここはなにもなく静かである。

想像力だけが、たよりである。

あおい空と、しろい雲と、みどりの葉っぱ。

こころは研ぎ澄ましていなければならない。





[61年目の原爆の日](#) [2006-08-06 14:43 by guminomi2]

61年目の長崎

台風は上陸しなかったが、あつい空気を置いていった。
今日もカンカン照りである。

長崎市長の平和宣言はよかった。
わかりやすく、まっすぐで、言うべきことをすべて言い、
堂々としていた。
もって回った言い方が横行している、世の中で、
こんなちゃんとした、物言いを久しぶりに聞いたような気がする。

いつも思うが、爆弾は、政治家や軍人には作れない。
そこにはいつも科学者がいる。
自らの意思で軍に協力してつくっている科学者もいるが、
この前、TVで見たが、若い女の科学者が、
今の環境（軍に協力）が一番私のやりたいことの最適なので、
今やっていることが、何につかわれるか、ということには、
何の関心もない、と、とても素直な顔で、言っていたのには、
心底、怖くなってしまった。
地球は、人間だけでは、維持していけない、星だと思う。
人間も、汚れた環境では生きていけない。

青い空、白い雲、緑の葉っぱ、透き通った水。
昨日の空には、マグリットの雲が浮かんでいた。



[61年目の長崎](#) [2006-08-09 14:26 by guminomi2]

月のきれいな夜に

昨夜は満月であった。
電気を消して、カーテンを開けると、
月の光が部屋の中に入り込んでくる。
ベランダを眺めれば、何もかもが鮮明である。
雲ひとつない。静かである。
眼を上げて、月を眺める。
今夜は目がよく見える。
月の中でうさぎがもちをついているところまで。

コロラドの月も、パミール高原の月も、
何万年前の月も、
行ったことはなくても、
月は変わらないであろう。

月が真に、輝いている夜は、平和だ、と、思いたい。

[月のきれいな夜に](#) [2006-08-10 14:41 by guminomi2]

お盆（終戦）

何もない時代をいやというほどすごしてきたけれど、
15日は、小さいときは、お盆の楽しい日、
大人になってからは、何の楽しみもない日になってしまったかしら。

田舎でお風呂に入っていて、飛行機の音を聞くと、
あ、B29！と、思ったり、
たまに、山の中から、不発弾が出た、という話が聞えたり、
遠足に行くと、傷痍軍人が白い着物で、立っていたり、
父親が、海軍の戦闘帽をかぶっていたり、
そんな、思い出がふり返ると出てくる。

いろんな人間が居る。
そして、人間のやることはあまりかわらない。
だれかに、なにかいわれたとか、
いわれたくないからとか、
大きな組織になっても、小さいころの仲間のことと、
やることも、中身もちっとも変わっちゃいない。

[お盆（終戦）](#) [2006-08-16 23:51 by guminomi2]

いま、グールドのモーツァルトをきいている

グールドのモーツァルト、としか、いいようのない、演奏である。
むかし、レコード屋で、試聴して、グールドのモーツァルトだけは
買うまい、と思っていたのだが。

これをきいて涙がでそうになった、と書いていたのを読んでから、
なんだか欲しくなって、それでも、散々迷って、

いま、きいて、う~~~~ん、なれるだろうか？

まるで、ジャズの即興演奏をきいているみたいである。

下地がバッハの感じである。

グールド編曲モーツァルト、と思えばいいのだが。

きいたことのある曲ばかりなので、まあ、落ち着かないこと！



[いま、グールドのモーツァルトをきいている](#) [2006-08-28 23:20 by guminomi2]

2004年に万博公園から、移転したときから、いちど行こうと思いつつ、いまに至り、「三つの個展：伊藤存×今村源×須田悦広」の中の須田悦広さんの作品を生で見たくて出かけましたが。

繊細な作品にこだわりすぎたようなおおがかりな展示で、
(木彫りで花や葉っぱを薄く薄くつくっている)

かなり上の方に展示され、近寄るとブザーが鳴る仕掛けになっていました。私のように目が悪くなった人間は、もっと、近くで見たかった、というのが本当のところ。

かというと、くつを脱いで、入っていく、睡蓮の展示も。其の大きな空間を贅沢に使った、作品を囲い込む木枠が、現代アートと言えなくもないかと。

建物そのものは、外に出ている部分が少なく、やたら大きなビルに挟まれているので、けっこう搜しました。ついでに言えば、美術館の中、外の光を取り入れてもうすこしだけ明るくしてくれないかな、と。

ここは、地下3階の地下展示なので、できないかもしれませんが。中之島の中なので、明るく景色はいいのですが、残念なことに、川が汚い、私が田舎から、出てきたときと、あまり変わっていない気がします。せめてこのドブ色をもうすこし、薄くする必要があります。





[美術館](#) [2006-09-03 15:03 by guminomi2]

秋雨の、

日である。

涼しさが天から降ってくるようである。

植木やの入っていない蓬はいっぱい手を広げて、
秋の虫の寝床になっている。



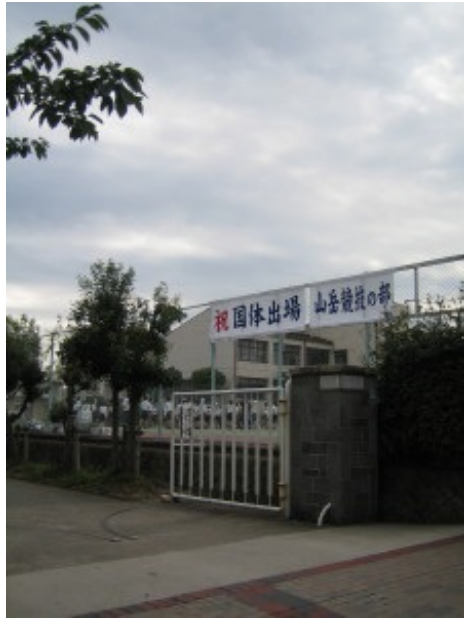


[秋雨の、](#) [2006-09-13 15:34 by guminomi2]

デジカメ散歩

なにがなし、秋を見つけに外に出た。
夏と秋が半々といったところである。
季節の変わり目というのは、こころひかれる。
桜の葉っぱの何枚かの黄色、
ちらほら顔を見せている萩、
ノウゼンカズラのすこし薄くなったオレンジ、
木々はあおい。
夏が色濃く残っているかな、まだ。





[デジカメ散歩](#) [2006-09-16 23:33 by guminomi2]

やっと来た、CD

ずいぶんと前、注文していたCDがやっと来た。

ハイドンのピアノ協奏曲集、アンドレアス・シュタイアーのフォルテピアノ。

出だしで、ああ！いいなあ、と気に入ってしまった。

音楽は、出だしで、好きが決まってしまう。

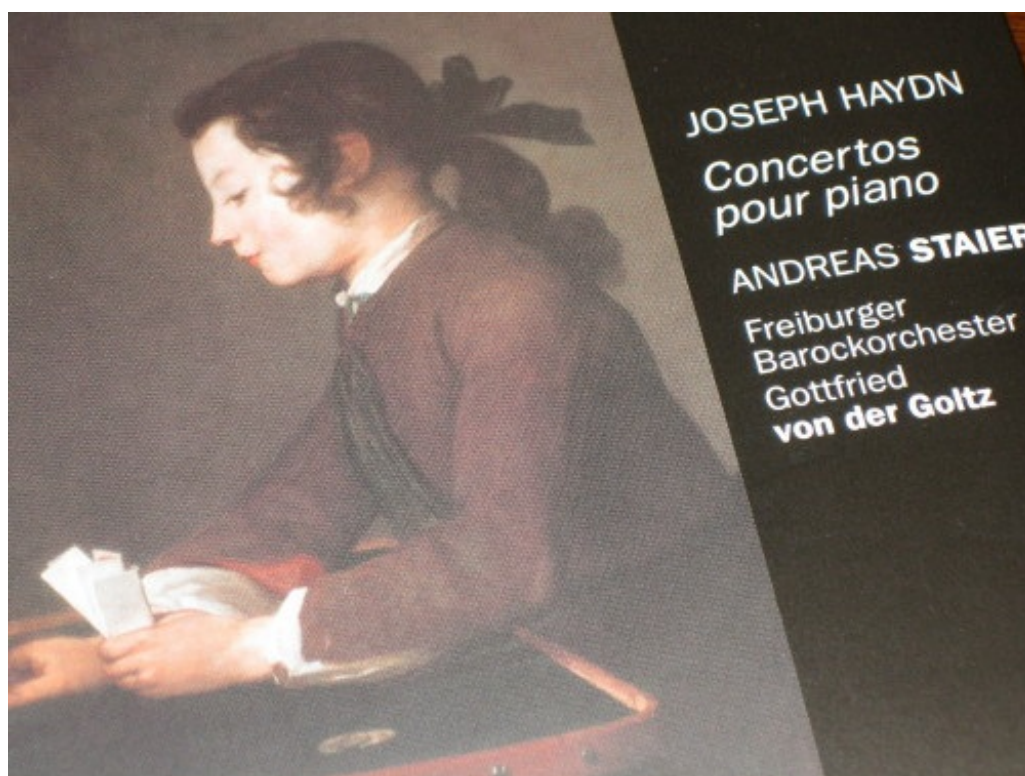
こういうときはほんと、うれしい。

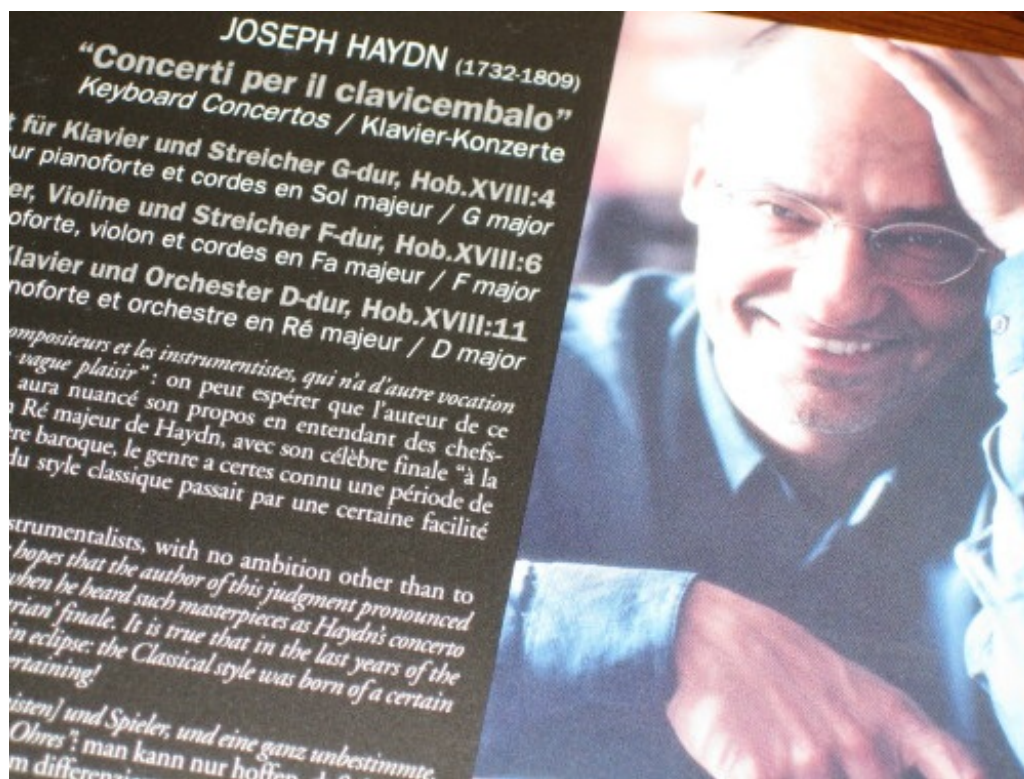
ドイツのレコード屋（と、私は言ってしまう）の音、好きだなあ。

どうしてか、違うんだなあ、日本の音と。私の偏見かな、と思いつつ。

音が繊細でやわらかい。音の大きい小さいにかかわらず。

音楽家だって、私はルーマニア人のピアニストが好き。





[やっと来た、CD](#) [2006-09-24 00:16 by guminomi2]

夢

鷺のような鳥が翼を閉じたような状態で空を飛んでいる。

そらはあおく、雲がない。

そのうち、鳥が変化してきた。

私の感覚では、石川五右衛門、歌舞伎に出てくるような、

(といっても歌舞伎はTVだけ)

真っ黒い紅い線の入った、ドテラを着て、大の字に

手と足を広げた状態で、しかも真っ黒い猫になって飛んでいる。

そのうち、猫もガウンも青くなってきた。青くなって飛んでいる。

そして、私の田舎の家の隣の畑(いまはない)にふわっと降りてきた。

「ちょっと、見て！見て！」と家の中に居る弟を呼んでいるのだが、

声が出にくい。

こちらから見ていると、青い大きな猫が、ス〜ッと小さくなって

二匹の白い猫になった。

二匹の白い猫は走り出て、下の田んぼの方に行った。

(私の田舎の家はずっと上の方であって、下の田んぼを眺められる)

下の田んぼの畔には土方の人たちが、何人かいて「なんだ、あっちへ行け！」

と猫をどなっている。

あ、そんなことをしたら、猫に襲われるよ、と、

上からはらはらしながら見ていた私は・・・目が醒めました。

外は明るく、完全な朝になっていたので、

夢を反芻して、頭に覚えこませたわけです。

久しぶりの変身夢です。(私自身が変身するわけではない)

私は現実的な夢を見ることはあまりなく、

ダリの絵に出てくるようなシュールな夢をよく見る。

絵がかければ、いいのと思う。

覚えているのでは、

ガラスのエレベーターに乗って空中を登っている、

外には、ダリのような世界が、どんどん現れては下に降りていく。

つまり、私が登っていく。

ずいぶんと昔、はじめてみたカラーの夢は、

ミカン畑の中を流れる川の水が、極彩色であった。

ちなみに、夢の中でも私は、方向音痴である。





[夢](#) [2006-09-30 12:35 by guminomi2]

ベランダでお月見

風に乗って白い薄雲が飛んでいく。

十五夜の月が出たり入ったりする。

しろい綿毛のような大きな雲もあちこちに浮かんでいる。

まるで絵のようだ。

これを昼間の景色のようにすっきりとデジカメで撮れたらなあ。

しかもオートで。

カメラやさん、昼間のような月景色を目で見えてるように撮れるカメラ、

売り出したら売れると思いますけど。

月を見てると飽きない。

想像は果てしなくひろがっていく。

しかし、今夜の満月は私には丸く見えない。

すこし、首を傾けてみる、丸くなる。

白内障が出てくると、眼軸がぶれると目医者さんに言われたが、

今夜、実感した。

強い乱視があってメガネをはずすと月が、タタタタと何個も見える。

三日月などを見ると、ま～あ！という感じである。

月を見るとちぢにものが思われる。

昔も今も。

薄雲が切れた満月のそばを轟音をひびかせて、

ジェット機が通っていく。

中秋の名月である。



[ベランダでお月見](#) [2006-10-06 22:16 by guminomi2]

谷川のにおい

その道に来ると、
ひーやりとして、ああ、なつかしいにおいがする。
ああ、谷のにおい、
水が流れて、木々が、片寄せあって、ざわめいている。
踏み切りのそばを通過して、坂道を登れば、
白い大きな雲が、目の向こうにある。





[谷川のにおい](#) [2006-10-12 22:19 by guminomi2]

天高く

秋の足跡ひろって、







[天高く](#) [2006-10-16 21:48 by guminomi2]

視野検査

いつもながらドキドキのドキ。ド緊張。

とくに1年にいっぺんほどやる今日のような人の手による

視野検査は、長いし、緊張がこうじると見えなくなってくる。

楽にすればいいようなものだが、絶対見逃すまいぞ！必死になるのがよくないのはわかっちゃいるけど、だめなのね。

右、中期の初期、左、初期の初期、と見つかったから、5年目くらいとしては、進み方はゆるいらし。右も最初は、初期の中期、左は去年からちょいとおかしくなったんだもんね。（ああ、無念！）

まあ、しかし、死ぬまで失明しないと医者のお墨付き。

こうなったら、やたら長生きするのも考えもんね。

見え方に対するレベルがだんだん低くなってきて、ま、いいか、

いま見えてるのを感謝しよう、という気になってくるから不思議。

人間て、とどのつまりは受け入れるように出来ているのかもね。

それが一番楽だから。いいような、悪いような。



田舎の帰り、

梅田北の陸橋から眺めると、

観覧車 十五夜の月 上に乗せ

という感じであった。

写真とりたかったなあ、カメラ持ってなかったのだ。

都会の月もまた、すばらしい。



[田舎の帰り、](#) [2006-11-07 22:29 by guminomi2]

京都駅ビル

今ごろ、京都駅ビルもないもんだが、
行ってなかったの、ついでに寄ってみた。
パイプだらけの屋根を空中回廊がはしっている。
ここを歩きながら、京都市内がタワーとともに見渡せる。
下を見ると、大階段とエスカレーターが見えてちょっとびびる。
大階段を下ると、意外に勾配がゆるくて、あれっという感じ。
下から見上げると、転げ落ちそうな勾配を感じさせられるのが、不思議。
上の方から太陽の光がふりそそいでくると、さながら天国への階段ってところか。
それにしても最近パイプ屋根が流行りなのか、
大阪の国際美術館の上の部分もパイプだった。
思うに、これが全部、竹と間伐材で出来ていたらどうなんだろう？
違う設計になると思うが。
京都タワーも京都には似合わないような気がするなあ。





[京都駅ビル](#) [2006-11-09 22:50 by guminomi2]

と、いう幸田文さんの随筆を読んだ。

私が、中学の終わりか、高一の時ぐらいに書かれたものだ。

徐々に面白い随筆で、楽しみに、飛ばし読みもしないで、最後まで読んだ。

特別でない日常のことを書いているのだが、言葉が豊富なので、

言葉の勉強にもなる。当時の東京弁を知ることができる。

聞いたこともない擬音が出てきたりする。

この本は街の本屋さんでひょこんと見つけたものである。

幸田さんはずいぶんと前、TVで見て、こわそうな人だ、

と思ったことがあったが、しゃっきりとした人のようである。

むずかしい言葉は使っていないのに、言葉の数がいろいろあって、

いまごろの言葉の少ない、繰り返しの多い小説とは

対照的である。うすい文庫本である。



紅葉

さくさくと落ち葉を踏む。

日向くさいにおいが立ち上る。

桜ははや落ちてしまったけれど、銀杏は盛り。

ど迫力の銀杏並木など毎年見たいと思いつつ、

近くで、満足してしまう。

我ながら、怠け者とも安上がりだとも思う。

残念なのは、甲東園坂道が、片側に建ったマンションのため

紅葉がしおれてしまったこと。

気に入りの仲良しの木のひとつがぼっさり、手足をもがれてしまったこと。

ひとはじつに残酷なことをする。







[紅葉](#) [2006-11-21 23:18 by guminomi2]

流れる

を、読む。

初めて読んだのは、母の病院へ行く途中の駅の待合である。

行く度に読んでいたら、本がなくなってしまうていた。

買ったのはふらりと入った街の本屋である。

こういうのも小説というのだろうか、

くろうと（芸者の置屋さんか）の世界に入ったしろうとの女中さんの記である。

（本人の経験かもしれない。むかしTVで聞いたことがあるような）

読んでいると胸が悪くなって吐き気がしてくる。

においやよどんだものや汚物が浮かんで私にくっついてくるような気がする。

しろうとの世界は広くて混沌としてわかりにくいから、

せまいくろうとの世界を見て、生きてみよう。

ほんのそばのこと、手を伸ばせばつかめそうな周りのことを
えんえんとあれやこれやと書いている。

私の一番苦手な分野なのに、私は読んでいる。

しかも一字一句とばしもしないで読んでいる。

言葉が動いている、啖呵をきっている、

言葉がひとりで歩いている。

果てしない、気の使いよう、

果てしない、無神経、冷淡、

やさしくて、ずるくて、

かしこくて、はたらきもので、

最後は主人公にとって限りなくいい方向にいつてしまうのだ。

こういうのを小説というのだろうか、とまた思う。

幸田さんは小さいときから、川をみていたそうだが、

私も子供のとき、自転車を止めて、川の下を、

水が流れるのを、飽きずに眺めていたっけ。

しかし、この本を開けると、ふいに襲ってくる

吐き気はなんだろう。



[流れる](#) [2006-11-26 15:13 by guminomi2]

木下順二さんがなくなった

ずいぶん若いころから、木下さんが新聞に書いたものを読んできた。
内容は忘れてしまったが、懐かしいようなおもいは残っている。
切り抜いて長く持っていたようにも覚えている。

「夕鶴」は誰もが知っていると思うが。

目線が好きだったなあ。

気骨があって、ぶれなくて、

こういう人を男らしい、というんだろうなあ。

勇者だなあ。

生涯独身だったそうなの。

私は、なぜか、こういう人にこころひかれる、男でも女でも。

やるべきことをやり、仕事（作品）を残して死んでいく人はいいいね。





[木下順二さんがなくなった](#) [2006-12-02 21:32 by guminomi2]

モーツァルトのレクイエム

を、聴いている、教育TV。

指揮はニコラウス・アーノンクール。

イブの日。





[モーツァルトのレクイエム](#) [2006-12-24 22:58 by guminomi2]